

ヌタプカムシペ

合併創刊号

第50号

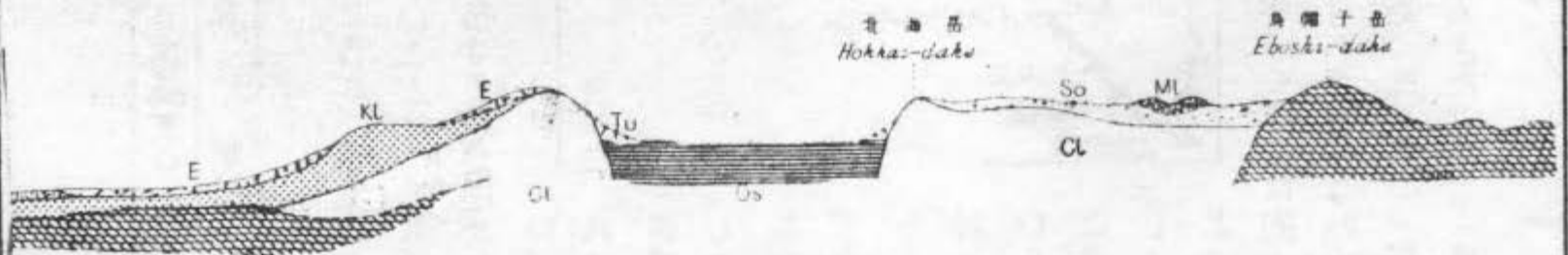
昭和55年9月1日発行

ヌタプカムシペ、その奥深き原始境

「ヌタプカムウシユッペ」という名。なんとすばらしい呼び名ではないか。明治二十六年に大雪山という名称があたえられたというが、やはり、湿原や沼、川のある、花で飾られた神秘的な高原の意とも、また河の大きく回流するところに立つ山々ともいう、ヌタプカムウシユッペというその呼び名が、この地域にはふさわしい。その意味もさることながら、美しい響きをもっているこの言葉をやはり大切にしたいと思う……。

* 鮫島博一郎「中央高地の植物」より抜粋しました。

昔の地図には、大雪山という表記はなく「ヌタプカムウシユッペ山」となっていました。このアイヌ語の美しい山名に心ひかれて登山した人がたくさんいたことでしょう。今では、ヌタプ山の上の方にある平地、カムシペの上を覆って、いつもいる者（山）という解釈がより正しいとされますが、大雪山もヌタプカムシペなのではなく、ヌタプカムシペが、大雪山も、大森林も、動物たちも、石狩川を中心とする無数の谷川や魚たちも、すべてをフツみこんだ大きな大きな呼び名であることがわかります。大雪の自然を守る会が生まれたのも、傲慢不遜な人間が、自らの父や母であるその奥深き原始境まで、えぐりとり、鉄とコンクリートを打ちこみはじめたからです。豊かな森林をむしりとりしてしまおうとしているからです。川をヌタスタに切りきざみはじめたからです。そして、その石狩川の水に水銀毒やエ体の知れない汚物をたれ流し続ける企業の横暴をみかねて、石狩川、水銀をなくす市民の会も生まれたのでした。一九八〇年代はどんな時代になるでしょう。反公害や自然保護の運動も、勢いを失いつつあるかにもみえます。私たちは、八〇年代の運動の原点を、このヌタプカムシペに求めて力を合わせることにしました。旭川、大雪を自然を守る会と、石狩川、水銀をなくす市民の会とが一つになって、反公害、自然保護の運動の根を一つのものとして新しい出発をしたのです。ヌタプカムシペにいたかれながら……。



〔大雪山、お鉢平周辺の地質断面図〕

総代表

旭川教育文化センター内
水野好吉

坂巻
旭川

厳冬期 石狩川源流の山々を訪ねて その1

大雪の熊も遠慮する山男
寺島一男さん

石狩川って本当に大きいと思う。旭川市内を流れるあの汚ない、コンクリートで固められた一本の直線を見る限りでは、とてもそんな実感が湧かないが、大雪山の天辺から、深ぶかた大地を刻んで滔々と流れる様を見ると、本当にそう思うのだ。石狩川の

石狩川のへその緒？

源流はもとより一本ではない。網の目のように、無数に枝分かれした沢筋、小河川から成り立っている。ぼくはその様子を、含めて、石狩川をへその緒のように思うのだが、それはぼくのマザー・コンプレックスからくる独りよがりだろうか。

山々から無数の河川が一本の流れに向かって集まる様子は、山を含めて母親の胎盤にみえるし、日本海に向けて延々と二六ニキメートル流れる大い河川は、ヘソの緒に思えてくる。自然という偉大な母親に育まれないか。

ら、生きるのに必要なあらゆる養分を、そのヘソの緒を通して補給されている赤児に、ぼくたちは思えてくるのである。それはともかく、ヘソの緒から網の目のようにひろがる石狩川源流の山々を連ねて歩いてみたら、石狩川の偉大さが身にしみてわかるのではなからうかと、山屋一流のアホさ加減で、そこいらを歩く計画をたててみたのである。

中古車で一三〇キロの山旅？

アホさ加減のそのついでに、石狩川本流の源流域にとどまらず、旭川で石狩川に合流する忠別川、美瑛川の源流域を加えたらどうなるだろうか。広い意味で石狩川源流に入るから尚更よからうというところで、結局ルートは石北峠から三國山



国境接線を通り、石狩岳連山を抜けて、大雪・十勝連峰を縦走して、富良野岳に行きつくコースとなった。構想がぼくの中に固まった。その好きな奴もいるもので、三人の山仲間が加わってきた。さぶく続く

ところで、嬉しいことか悲しいことか、石北峠から石狩岳までは夏道が一切ない。とな

ら大雪の神々が舞いもどるこの期にしよう。とこんな

新聞

山の

生きて化石 ウスバキチョウとコマクサ



オス



メス

シリーズ『山の主役』第1回

天然記念物のウスバキチョウをつかまえて、高価に売りとはす不心得者があとをたぢません。彼らは、ウスバキチョウの並々ならぬ涙々の生いたちを知っているのでしょうか？ 自分が今とどうして違いかけるチョウが、今からあしかけ三年前に卵を産みつけられたものであることを知っているのでしょうか？

薄羽黄蝶は、日本では北海道にしかない高山蝶で大雪山群の一五〇メートル以上の山地に住んでいます。どうして、あんな厳しい自然条件のところに住むのでしょうか。ウスバキチョウは氷河の時代にシベリア大陸から渡ってきました。ナキウサギ

ヤコマクサとともに氷河期を北海道ですごしたのです。氷河の時代が終ると、暖かくなり、海の水が増えて宗谷海峡にさえぎられて北海道にどじこのめられ、氷期に近い気象条件の大雪山にいますというわけです。

ウスバキチョウは、食草としてコマクサしか食べません。この誇り高い本能は決して変更されることはありません。大雪山の自然を破壊し、コマクサがなくなれば、当然、ウスバキチョウも滅びるしかありません。七月も中ごろになれば、コマクサの咲く石ころ地には、すばやく飛びまわるウスバキチョウの姿がみられます。数少ない配偶者をみつけて交尾します。

交尾後のメスは尾の端に灰色の受胎のうをつけ、八月には産卵します。このとき、高山植物の女王といわれるコマクサの根きわの小石に多く産みつけます。卵はそのまま厳しい冬を雪の下ですごすのです。

翌春、コマクサが芽を吹くころ、卵からふ化し、コマクサの花を食べながら急速に成長し、夏には老熟に達して、地上の石ころの間にかっ色のマユをつくってさなぎとなり、そのまま越冬するのです。三年目を迎えた夏、羽化したウスバキチョウは、配偶者を求めて飛びたつので、ウスバキチョウとコマクサは、どちらも生きて化石なのです。



森の新聞

やまの親爺こと

ヒグマ

Ursus arctos

求む！通信員

森の通信員を募ります。森といっても、身のまわりの植物や動物について四季折々の気づいたことを手紙にして編集部へ送って下さい。全員の力で、おもしろいニュースをつくり上げましょう。



森の通信

一本の樹に学ぶ

通信員

三浦国彦

嵐山の林には、実にたくさん
さんの虫がいます。その写真
真きうつしている間に、ウ
ルシにやられて三日間も学
校を休んでしまいました。
これは無知と不注意です。
田畑で、害虫を退治しよ
うと、農薬を散布したとこ
ろ、クモが死んでしまっ
ます。害虫がふえてしま
いました。こういう社会的
な無知や不注意はとりかえ
しがつきません。

地球に住む約一五〇万種
の動物のうち、一〇〇万種
以上は昆虫です。どうして
こんなにも多いのかは、森に
入って、一本の木をよくみ
るだけでよくわかります。
嵐山でこんな虫の写真をと

る決意をした当初、あちこ
ちと歩きまわつても、なかな
か見つからず、焦ったも
のでした。向うは隠れ、プ
ロ、こっちは生態学の甘い
勝負はたたかう前について
いました。

花をムシヤムシヤ食べたり
花のミツを吸っているもの、
土の中の根にしがみついて
樹液を吸っているもの、そ
して、落葉をうまそうに食
っているものまで、何とも
ものすごい種類の虫たちが
一本の木をよりどころに生
活していたのです。

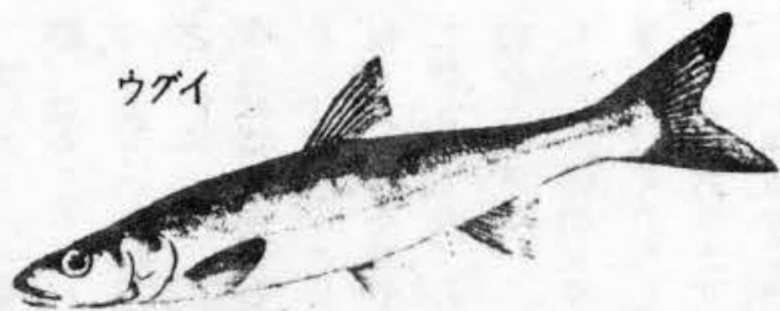
ワシのことを「山親爺」
などと呼んでいるようだ。が
山よりは、川ぞいの森林地
帯の方が住みよいにさまっ
ている。山の上には食いの
のが足りないからウ。
ま、釣りに来たリ、キノ
コトりに来たリするときは
ワシの領地をおかさないう
うに注意してくれよ。

ワシは、ライオンなどと
ちがって温帯の動物だから
季節に合わせて生活のしか
たから、食いのもの食いか
たまで変えているんだよ。
ワシの前あしのうらを見
てもらえばわかるだろうが
動物をたたき殺すもよし、
土をほじくりかえすもよし
魚をひっかけもよし、便
利にできるとよ。山よし、
川よし、草地よし、岩場よ

し、万能型のあしであるよ。
偏平足だなんて云う野郎の
ねたみがいじましいよ。白
クマの野郎なんぞ、足のう
らまで毛をはやして、水の
上でもすべらんようにして
るもんだ。

石狩川にこそサケの大群を!

川の新聞



ウグイ



ドジョウ

オレの話は
なかつたぞ
ドウジョウよ

まずさが売り物

ウグイ

Tribolodon hakonensis

シリーズ『川の主役』第1回

石狩川にはついにウグイ、思えばかわいそうなのは、人間的にやらない。ウグイもかわいそうなるもんさ。ウグイは、コイ科の魚ですが、一般にはまずい魚とされ、かまはこの原料にされたり、豚のエサにされたリしています。産卵期にはオスもメスもからだの横に三すじの赤い帯が走ります。これを婚姻色といっています。ウグイには、いつもは海にすんでいて、産卵のときだけ川に上る降海型のもので、川だけで生活する純淡水型のものがあります。海のものには四月から六月にかけて川をさかのぼり、砂や小石に産卵するのです。雑食性で、何でも食べることから、他の魚がいなくなると、王子製紙などの大量の汚水、造成された川辺など、これを見て悪条件そのものだ。近い将来、必ずサケの湖上を再現させなければと感じた。

なるような川でも、何とか食いつなぐことができるのかも知れません。大きいものでは40センチメートルのものもいます。ところで、オサラッペ川と石狩川の合流点には、冬を越すウグイがよく集まりますが、ここのウグイから国の危険標準値の数倍もの水銀を含んだ汚染ウグイが多数発見されています。水銀といえは水俣病を思い出しますが、その標準が一応0.3PPMとされています。しかし、わが石狩川のウグイの30センチもの魚肉からニPPMもの水銀が検出されました。もし、ウグイがおいしい魚だったとしたら、どうなるでしょう。さて原因はいかに!

父の話では、サケの死骸はホツチャレといって、腐れはフランクトンの栄養分になって、生まれてくるサケの稚魚のエサになるといふ。自然のしくみを大切にしたいと思う。

「石狩川にサケをとりもどせう」というだれも一致できるわけが有りながら、だれもがあらめてしまった夢……。夢を再現させようと「石狩フォーラム」が行なわれましたが、その参加者の声を集めてみました。

郷土愛を原動力に

サケを上川盆地奥深くのらせることは、技術的にはそれ程むずかしくない。真に日本を、郷土を愛するといふ純粋な気持ち、豊かな心を運動の出発点にする必要があると思う。

全市民的な幅広い運動に立脚してのみのこの運動の成功があると思う。

夢から実現へ

こんな汚れ場ついでし

まった石狩川を、元のよう

にきれいにしてサケをのぼらせるなんて、全く夢物語であろうと思っていた。学習の過程で、これは夢ではなく実現可能なのだとわかり、明るい気持ちになった。

近い将来に必ず!

サケの豊漁が巷で騒がれても無毛着だった。

たれ流される水銀の恐ろしさ、産卵のために必要な木質のある清流の少ないこと、サケの湖上を妨げる深川の

自然産卵させたい

千歳川ではのぼってくるサケをインディアン水車で全部とりにくしていたが、人工小化も大切だが、自然に産卵させてやりたい。夜に自由ののぼらせるとかして、自然と人工をあわせてやれないものだろうか。

千歳川の上流でホツチャレの姿をみつけて感動した。水車をのりこえて自然産卵してつとめを果たしたサケがいたことを知った。

サケクイズ

- ① サケとマスがちがいがわかりますか?
- ② 放流した稚魚100匹のうち、北洋にたどりつくのは何匹くらい?
- ③ 放流した稚魚100匹のうち、ふるさとの川に帰ってくるサケは何匹くらい?



大雪・石狩

Forum

会員のみなさんのページにしたいのです。ハガキ、電話、なんでも思いついたらご一報下さい。

今回は編集の都合でフォーラムとは似ても似つかぬ形となりました。おわびします。

しかし、藤田文の手記には心うたれるものがあります。Mありがとうございます。ごさいます。

旭川駅から9時間近くも列車にゆられてやっと根室駅についた。「遠いなァ」それが実感だった。

八月十六・十七日、自然保護シンポジウムが根室で開かれた。旭川からは私ひとりの参加。心細くはあったが、年に一回、全道各地の自然保護に情熱を傾ける人たちに再会できるのが楽しみであった。

一日目は、地元自然保護団体から風蓮湖周辺の自然がどうなっているかが報告された。夜の交流会では恒例の自己紹介をかねた各地の運動の状況の紹介である。道連合の田中、日高横断自動車道反対運動のリーダーとして東奔西走の活躍ぶりには目を見張るものがあった。

札幌オリンピック問題では、世論に訴えて見事な選

第11回 北海道自然保護シンポジウム 参加記

“風蓮湖の保護と開発を考える”

ちの存在に、力強く励まされる思いがした。また、新しい顔ぶれも嬉しいことだった。帯広畜産大や北大の学生たちが、巡検の世話などに骨身を惜しまず、その姿は清々しかった。

翌日の巡検は、野鳥や高山植物の豊

山植物の豊
庫といわれ
る風蓮湖
春国岳を
歩い
た。
ます
その
広さ
に驚
かさ
れた。
もう
ほと
んど
花は開花
期を終えて

口ワシがたくさんとんでいたという。そこに産業道路がつけられようとして、その計画が進められている。真に住民の利益になるのか見極めねばなるまい。

貴重な動植物があるから保護すべきだという議論が一方にある。この議論が当を得ているかどうかは別にしても、あんなに広々とした、どこまで歩いても風景が依然として遠くに見える場所を私は知らない。

市民のいこいの場が踏み荒され、空カンプが無雑作に捨てられるのを許すわけにはいかない。

心のゆたかさとは、豊かな自然の中からこそ生まれ育つものではないだろうか。都会の中だけで育ってきた人々の姿をみると、つくづくそう思われるこのころである。

地の声

赤岳の定期バスが昨年から止まった。赤字だという。お花畑が見事だと、あんなにたくさんの人々が押しかけた赤岳の銀泉台。どうして人々が押しかけなくなったのかネエ。

観光開発の末路とはこんなものサ。

▼敷島の滝や小函の神前壁を見たくて層雲峡から大函ゆきのバスに乗ったらヨ。お前、流屋、銀河の滝を見たらすぐバカ長い新トンネルだ。トンネルを出たら、もう大函ヨ！大バカヨ。この先どうなる。

動を繰りひろげた。前道連合代表の山本も元氣な姿を見せられた。

根室で独自の自然観察を続けている三浦二郎氏には風土に根ざした運動のあり方を教わる思いだった。まだまだ若輩の私は、何年も持続した運動を支える人た

いたけれど、ハマナスのピンクが色鮮やかだった。秋になると、湿原一帯のアツケシソウが一面を真赤に染めるといふ。想像するだけでその様が伝わってくる。

春国岳とは、アカエゾマツの茂る森の意であるそうだ。かつては密林で、オジ

とぼくも含めて、全員が30代半ばだから、車でいえばポニーユツまでは行かないが中古車くらいのものであろう。なまじ新車よりも中古車の方が無理をしなくていいから……なんて励まし合うというか慰めあうというか、石北峠から富良野岳の縦走が実行されることになった。(つづく)

会員の声を

フォーラムは市民の声を反映させる広場のことで、この広場で、いろいろな問題を論じあったり、感想を寄せあったりしましょう。

電話よし、葉書きよし、手紙よし、肩のこらない広場の中にこそ、市民運動の本当の力、連帯感が生まれ、てくるのではないでしょう

編集部員募集

当会のニュースは装いも新たに「ヌタアカムシペロ」として毎月一回発行することになりました。時々活字印刷にしますが、お金か問題です。それからそれから編集部員としてニュースづくりをして下さる方はいませんか。面白くてためになるニュースにするために協力下さい。

ちびっ子探検学校の反省会です

この夏休み、白川で行なわれた「ちびっ子探検学校」の反省会をやりますヨ。写真の注文や、感想発表やゲームなど、楽しくすごしましょう。

※ 九月 六日(土)

二時 四時

旭川市文化会館和室

八条 九丁目右二号

表大雪の現地調査に参加しませんか

連絡おくれで申しわけありません。当会の調査研究部門が中心になって、表大雪の林道、山岳道路、河川、生物などの状況についての現地調査を行ないました。九月七日です。これを機会に、できるだけ多くやりたいので、参加に協力できる方は、事務所の方へ申し込んで下さい。最初は見に行くことから始まります。

ヌタプカムシペもいじ

- ① 表紙のことは
 - ・ヌタプカムシペ、その奥深き原始境……………(1)
- ② 山の新聞
 - ・厳冬期、石狩川源流の山々を訪ねて(その①)……………(2)
 - ・(石狩川のへその緒? 中古車で130キロの山旅?)……………
 - ・山の主役たち……………コマクサとウスバキチョウ……………(3)
- ③ 森の新聞
 - ・求む/森の通信員……………(4)
 - ・森の通信(一) 一本の樹に学ぶ……………
 - ・森の主役たち……………やまの親爺こと、ヒグマ……………(5)
- ④ 川の新聞
 - ・石狩川にこそサケの大群を……………(6)
 - ・サケクイズ……………
 - ・川の主役たち……………まずさが売り物、ウグイ……………(7)
- ⑤ フォーラム
 - ・第11回北海道自然保護シンポジウム参加記……………(8)
 - ・『地の声』 観光地の末路を見たり銀泉台……………(8)
 - ・お知らせ(ちびっ子探検学校反省会)……………(9)
- ⑥ 守る会情報
 - ・大衆性豊かな運動をめざして/運営委員氏名……………(10)
 - ・「守る会」の歩み/そのあらまし……………(11)
- ⑦ 催し活動案内……………森の学校(九月例会)案内……………(12)

浮島湿原と天幕演習林

うきしま てんまく

森の学校

いろいろく野山に
飛びだそう
九月例会

お待ちせしました。今年の森の学校は、ちょっと趣好を変えて、高層湿原と、演習林での学習です。天塩山脈にかゝる浮島岬の湿原と、旭川農業高校の天幕演習林です。ふるって御参加下さい。

♪とき	九月二十三日(秋分の日)
♪ところ	天塩山系浮島湿原と天幕の演習林
♪対象	会員ならびに一般
♪定員	五〇名(貸切バスを使います)
♪会費	大人 三、〇〇〇円(高校生以上) 小人 一人二、〇〇〇円 二人で三、〇〇〇円
♪申込み	『秀岳荘』(七条農物公園)
♪日程	上川支庁前発 八、〇〇 天幕演習林 一〇、〇〇 浮島高層湿原 一二、三〇 旭川解散 一六、〇〇
♪講師	岡村秀雄先生(旭農高林業科の先生)
♪問い合わせ先	電話

発行者 大雪と石狩の自然を守る会
 旭川市六条十三丁目在一号
 旭川教育文化センター内
 総代表 水野好吉 電話

振替番号 旭川 14464